

# 留学生のための ジャーナリズムの 日本語

—新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現—

上級

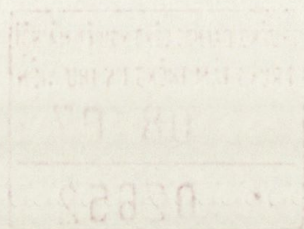
—橋大学国際教育交流センター 編  
澁川晶・高橋紗弥子・庵功雄 著

# 留学生のための ジャーナリズムの 日本語

—新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現—

一橋大学国際教育交流センター 編  
澁川晶・高橋紗弥子・庵功雄 著

上級



©2015 by Hitotsubashi University

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.

Trusty Kojimachi Bldg., 2F, 4, Kojimachi 3-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan

ISBN978-4-88319-715-6 C0081

First published 2015

Printed in Japan

## まえがき

本書は、一橋大学大学院商学研究科経営学修士コースにおける、留学生向け日本語集中講義で使用した教材をもとに作成されました。

新聞や雑誌には特有の省略表現や文字通りの意味では説明がつかない語彙・表現があります。その中には、もとの意味から変化して使われているものもあり、その理解のために日本の文化や社会に関する背景知識が必要となるものも数多く含まれています。新聞や雑誌の記事を読む際、使用されている全ての語彙・表現を知っている必要はありませんが、キーになる語彙・表現を知っているか否かは文章理解を大きく左右しますし、その知識が文章全体の理解を支えてくれるはずです。

本書ではこのような語彙・表現を中心に扱い、新聞・雑誌記事の豊富な例とともに理解を深めます。同時に、そのような語彙・表現を知らない場合にはどのような方法で推測し読み進めればよいか、その道筋も示しています。

本書の最大の特徴は、豊富な実例です。作例はできる限り避け、2012年以降の朝日新聞などから主に経済・政治関係の記事を107件取り出し（作例を含めた合計は122件）、それらの中でターゲットとなる語彙・表現を示しています。

各課は、「ウォーミングアップ」で学習項目を含む記事に触れ、「この課のポイント」で学習項目を確認、「読んでみよう」と「考えてみよう」で多くの実例に触れて、その意味を推測する練習を重ねながら理解を深め、最後に、「この課のまとめ」で学習した語彙・表現を確認する、という流れで、学習の準備、実践、確認作業がスムーズにできるよう配慮されています。

巻末には資料として、日本の教育制度や歴代首相名など、知っておくと役に立つ情報がまとめられています。また、語彙索引では、それぞれの語彙・表現がどの記事で使用されたのかを確認できるように記事番号が振られています。

本書は、日本の経済・商業関係について学ぶ留学生はもちろん、一般の上級日本語学習者が語彙・表現力を向上させるために活用することができます。また、未知の語彙・表現にどう対処するか、そのストラテジーを学ぶ教材としても最適です。短時間で大意を把握する「速読」の授業にも適しています。さまざまなクラスで本書を活用していただき、日本語の「底力」を上げることに貢献できるよう願っています。

最後に、本書をなすに当たって、きめ細かにコメントをくださったスリーエーネットワークの佐野智子さん、相澤洋一郎さんに心よりお礼申し上げます。

2015年5月

著者一同

# 目次

---

|                       |            |
|-----------------------|------------|
| 本書をお使いになる方へ           | v          |
| 学習を始める前に              | 2          |
| 第1課 体に関連のある語彙・表現      | 6          |
| 読解問題1                 | 26         |
| 第2課 背景知識が必要な語彙・表現(1)  | 30         |
| 身近なものに関連のある語彙・表現      |            |
| 読解問題2                 | 45         |
| 第3課 背景知識が必要な語彙・表現(2)  | 50         |
| 戦いに関連のある語彙・表現         |            |
| 読解問題3                 | 66         |
| 第4課 背景知識が必要な語彙・表現(3)  | 70         |
| 社会的背景を持つ語彙・表現         |            |
| 読解問題4                 | 80         |
| 第5課 もとの形から変化している語彙・表現 | 84         |
| 読解問題5                 | 100        |
| 今後の学習に向けて             | 104        |
| 総合練習                  | 110        |
| 資料                    | 119        |
| ・野球のルールと名称            | ・相撲のルールと名称 |
| ・日本の教育システムについて        | ・年表        |
| 語彙索引                  | 124        |
| 別冊 解答                 |            |

## 1. 本書の対象者

日本語上級学習者を対象としています。経営、経済、商学等の分野に興味を持っている学習者はもちろん、「読むスキルを向上させたい」「日本語の新聞をより速く適確に読めるようになりたい」と思っている学習者のみなさんに使っていただくことを想定し、作成しました。

## 2. 本書の目指すもの

本書は、新聞・雑誌記事を使って記事の内容や記事文の構成を学ぶことを目指すものではありません。新聞・雑誌記事によく見られる語彙・表現を取り上げて学習するとともに、それらが未知語であったときの対応の仕方を学ぶことを目的としています。

## 3. 本書の特徴

### ① 豊富な実例

2012年以降の朝日新聞や雑誌の経済・政治を中心とする実際の記事107件（作例を含めると122件）を収録しました。その中でターゲットとなる語彙・表現を示すことにより、その語彙・表現が実際の文脈で、どのように使われるのかを知ることができます。

### ② 理解をスムーズに導く構成

各課は、簡単な記事を読んで、その課で何を学ぶのかを理解する「ウォーミングアップ」と「この課のポイント」、豊富な実例を通して語彙・表現の意味を推測し理解する練習を重ねる「読んでみよう」と「考えてみよう」「やってみよう」、学習した語彙・表現を確認する「この課のまとめ」という構成になっており、学習の準備、実践、確認作業がスムーズにできるよう配慮されています。

### ③ 力試しとしての練習問題

各課の終わりに「読解問題」、学習の総まとめには「総合練習」があり、課の中で読んだ記事よりも長い記事を読むことが求められます。ここでは、その課で学習した語彙・表現の知識、意味推測のストラテジーを生かし、より効果的な読みができるようになっていることを確認することができます。

### ④ 語彙索引と社会文化情報

巻末には語彙索引があり、ページ番号と記事番号を手がかりに、それぞれどの記事の中

で使用された語句が確認できるようになっています。学習のターゲットとして提示された語彙・表現が他の記事にも使われていることもあります。そのような場合、複数の文脈で意味・用法を確認することができます。また、記事を理解する上で役立つであろう情報（日本の教育制度、歴代首相など）についても簡略にまとめられていて、学習の助けになります。

## 4. 本書の構成と使い方

### ■本書の構成

本冊は、初回の授業で使用する「学習を始める前に」、実際に語彙・表現の学習と推測練習を行う「第1課」～「第5課」、学習の総まとめを行う「今後の学習に向けて」および「総合練習」で構成されています。巻末には、学習参考用の「資料」「語彙索引」があります。

#### 学習を始める前に

本書でどのようなことを学習するのか理解し、目的意識を持って学習を進められるよう、動機付けをするセクションです。

#### 第1課～第5課

第1課から第5課の順に、語彙・表現の意味が比較的推測しやすいものから、推測が難しいものへと学習を進めます。最初は、語彙・表現に具体的なものが含まれていて、意味が推測しやすいもの（例えば、「頭を抱える」など）、次に、その語彙・表現を推測し理解するには、ある程度その背景にある文化・社会的知識が必要になるもの（例えば「のれんに腕押し」など）、さらには、語彙・表現そのものが、もとの形から変化していて推測しにくいもの（例えば「生保（生命保険）」など）というように、段階的に学習が進められるよう配慮されています。

#### 今後の学習に向けて

第1課から第5課で学んだことを振り返りつつ、さらに読解に役立つ4つのポイントを挙げて読む力をサポートするセクションです。

#### 資料・語彙索引

巻末の「資料」と「語彙索引」は、より理解を深めたり、広げたりするために必要に応じて使います。

## 別冊 解答

別冊には、「考えてみよう」の一部、「やってみよう」と、「読解問題」「今後の学習に向けて」「総合練習」などの長文問題の答えを掲載しています。「考えてみよう」で取り上げたアンダーラインの語彙・表現の意味については、<http://www.3anet.co.jp/ja/5380/>で確認することができます。なお、各課の「ウォーミングアップ」の「問い」や、「読んでみよう」については、本文中に解説がありますので、別冊の解答には、答えを収録していません。

### ■使い方

授業で使用する際には、1課につき、90分授業2回で終えることを想定しています。授業を15回できる場合は、以下のような進め方が考えられるでしょう。週に1度授業を行うとすると、概ね半年のコースで本書を終える設計になっています。

### 《全体の進行イメージ》

|     |             |
|-----|-------------|
| 1回  | 「学習を始める前に」  |
| 2回  | 第1課         |
| 3回  |             |
| 4回  | 第2課         |
| 5回  |             |
| 6回  | 第3課         |
| 7回  |             |
| 8回  | 第4課         |
| 9回  |             |
| 10回 | 第5課         |
| 11回 |             |
| 12回 | 「今後の学習に向けて」 |
| 13回 |             |
| 14回 | 総合練習        |
| 15回 | 総合練習／試験など   |

本書は基本的に、学習者が予習しないことを前提にしています。授業の中で初めて実際の文章と表現に触れ、その場で自分が持っている知識等を総動員し、推測しながら読むことで、力をつけていくことを目指しています。したがって、学習者に求められるのは、授業で学んだことを復習することです。学んだ語彙・表現だけでなく、読んだ記事に出てきた、自分にとっての新出語彙について、その意味を各自しっかり復習しておくことが大切です。

各課はそれぞれ、次のように授業を展開することができます。

### 《課ごとの進行イメージ》

|     |                  |                                                                                      |
|-----|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1日目 | ウォーミングアップ        | 授業の導入に使います。学習内容を伝える前に、本文を読みます。                                                       |
|     | この課のポイント         | 「ウォーミングアップ」の文章に触れた後で、その課で何を学ぼうとしているか説明します。                                           |
|     | 読んでみよう           | 比較的短い記事を多数読みます。ターゲットとなっている語彙・表現を探したり、下線が引いてある語彙・表現のものの意味から、記事中の意味を推測したりするなどの練習を重ねます。 |
|     | 考えてみよう<br>やってみよう |                                                                                      |
| 2日目 | この課のまとめ          | 各課で学んだ語彙・表現のリストです。復習する際に活用します。                                                       |
|     | 読解問題             | 比較的長い記事を読みます。授業内で扱う時間がない場合には、宿題にすることもできます。                                           |

---

## 学習を始める前に

---